

JOFIOSAKA Vol.29

2012年(平成24年)2月1日発行

発行者:大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部:大阪府東大阪市中小阪1-5-20 tel06-6729-9485 fax06-6729-9457 編集責任者:萱間修(広報部)



＝防波堤等の釣り利用への対応＝について

來田 仁成 (大阪府釣りインストラクター連絡機構代表)

国土交通省でいま「港湾施設の多目的使用に関するガイドライン＝防波堤の釣り利用への対応＝」を作成中です。その内容はともかくとして、全釣り協が設立されて以来、長い年月を経てようやくここまでできたかという思いです。というのも防波堤は釣りに利用されている現実はあるけれども、それは黙認された状態であって、決して自由に釣りをしてよい場所ではなかったのだから。100年以上も続けて渡船店が営業を続け、釣り人を渡すかわら、不審者の発見や港内事故に際しての協力などの役割を果たしていても法の上では何ら認められていたわけではありません。それは人類の歴史がはじまってまもなく以後食料を得る方法として釣りが行われていた歴史が、法の上ではまだ全く現れてきていなかったのと同様でした。

昭和 51 年、神戸の須磨に神戸市立海釣り公園ができたのが、画期的なできごとでしたが、それは漁業の一つの場面としての公園でした。以後景気の上昇機運によって各地に釣り公園が続々と誕生しブームになりました。

そのなかで港湾施設として大阪市立魚つり園も誕生しました。

大阪市の場合、市の自然海浜がすべて人工海浜になった以上、自由に釣りのできる場所を残しておく必要があるという、故三木武夫氏(元全釣り協副会長)らの主張が市側に理解されて、料金を徴収しない釣り場として開かれました。また、その経緯の中でこうした限定した場所に釣り人を封じ込めようとする方針ではないとの確認もしておきました。

そうした全国的な流れの中で国土交通省港湾局では、平成 3 年 12 月 24 日付で「防波堤等の多目的使用について」というガイドラインを通知、同時に「港湾施設の多目的使用に関する技術上の基準の適用について」という通知を出しています。安全柵や管理施設の適応性などハードの面に対する規定であるわけです。

つまり今回開かれている検討会は 20 年を経過したこれらの規定の見直しにあたるわけです。

この 20 年間に、国土交通省と釣り人の間には何の連絡もなく、中でうたわれている「親水護岸」つまり散歩道のようなものだけが、市民の声とは関係なく進んでいました。

久しぶりに港湾当局と釣り人の接触が回復したのは、平成 16 年 3 月 23 日大阪キャッスルホテルで開かれた国土交通省近畿地方整備局主催、大阪市ベイエリア開発推進機構後援、で JOFI 大阪、大阪湾見守りネットが協力して開かれた「みなとの環境シンポジウム in 大阪＝市民参加と魚釣り公園＝という会合でした。

パネリストには国土交通省港湾局環境整備計画室専門官の酒井敦



私たち釣り人の権利は、新しいガイドラインでも守られなくてはなりません。

史氏をはじめ大阪市港湾局企画振興部開発課長の数内弘氏、そして国土交通省近畿整備局海洋環境海岸課長補佐中川富士夫氏が「大阪南港魚釣り園における社会実験」というテーマで報告をしていただきました。基調講演は非力ながら來田が「大阪湾のつりーいま、むかし、みらい」がつとめ、直立岸壁を釣る大阪発の釣り文化の歴史と現状について意見をのべさせていただきました。

これをきっかけに NPO 法人 釣り文化協会が誕生し、港湾施設や港湾緑地の多目的使用に関する議論がまきおこり、平成 18 年には内閣官房都市再生本部の市民によるモニタリングの一環として、いまも続けている「大阪湾水質調査」がはじまったわけです。

現在の会員の中には、当時から参加していただいているかたも多数おられ、その精神が現在の JOFI 大阪を形成しているのだと思います。

さて最初のガイドラインの問題ですが、20 年の経過を経て、安全設備の基準という部分では、ほとんどかわりはなさそうです。ただこれが実行されるかどうかという点、予算の極端に欠乏している自治体側で、これに沿う施設を作るのはかなり難しいでしょう。

そうなる管理のソフトの面で釣り人が協力する以外に道はなさそうに思えます。

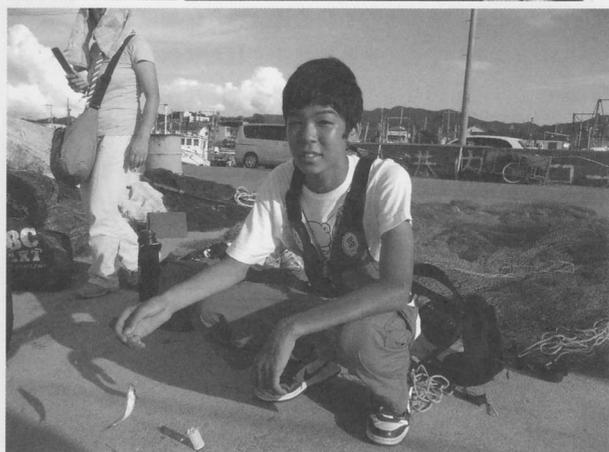
自治体との相互理解を基礎として自己責任の周知、ライフジャケットの着用など「大阪方式」がいまのところ有効なかたちでしょう。

ともあれ、ここ数日の間に国土交通省港湾局から見直しのパブリックコメントが (<http://www.mlit.go.jp/> から探せることにはならず)ごく短期間に募集され、2月の9日には答申が発表されて、平成 23 年度中に成立という運びになるはず。みなさんもそれぞれの意見を提出していただくことをお願いします。

報告1 ボーイスカウトなにわ地区 釣り章考査会 (H23-9/18)

なにわ地区の技能章考査会は、全国的に大災害をもたらした台風15号が北海道東方に逃げた翌日の9月18日、淡輪にて開催されました。午前中は講義と実習が行なわれ、午後の理解度考査で座学を終了。午後3時、いよいよ期待を膨らませての実釣となったのですが、私たちの予感が的中したのか、魚信がまったくないままに2時間あまり…。子供たちは飽きもせず懸命にコマセかごを沈めてアタリを待っていました。ようやく5時近くになって波止の先端に陣取ったグループに15cmのカタクチイワシが釣れ始めると、釣り場は急ににぎやかになり、はしゃぐやら笑うやら、本当に楽しい時間でした。6時

15分、釣れている最中に道具の後始末となったが、ここは規律の正しいチームだけに気持ちの良い終演だったと思います。最後に講評を依頼されたが、難点もないので、私が釣りの信条としている、「釣って殺生、食べて往生、魚に感謝」。ありがたい気持ちで釣りを続けてくださいと言って今日の講習会を閉じた。(報告：川村)



報告2 八幡市親子釣り教室 (H23-9-24)

9月24日土曜日、八幡市親子釣り教室が、午前9時～午後4時、1日間の日程で開催。さくら小学校にて座学を、志水池にて実釣を行いました。参加人数45名、応援者12名。

(報告：京都南支部 吉川幾久雄)



報告3 柏原市釣り教室 (H23-9-25)

平成23年度柏原市釣り教室は前期3日間(6/4, 6/18, 7/20)、後期3日間(8/20, 8/27, 9/2)で実施しましたが、9/2は台風12号により中止になりました。教室ではウキヤルアーを造り、実釣で使う仕掛けも準備し、キャストイングの練習も行ないました。参加者全員で釣りを準備することから楽しみました。9/25恒例のマス釣り大会を、千早マス釣り場で晴天の中で行いました。大会参加は8家族35名。インストラクターは中野、奥村、宇須、小松、森脇。魚もよく釣れたので、大きな歓声の中で一日が終了しました。(報告：中河内支部 森脇)



報告4

南港魚つり園 秋の釣り大会&魚拓教室 (H23-10/9)
南港魚つり園 日曜日巡回釣り指導 (通年)

10月9日、南港魚つり園にて「秋の釣り大会」と「魚拓教室」を開催。秋晴れの気持ちのいい一日。イワシ、ソーダカツオ等がよく釣れて、楽しませてくれました。珍しい魚ではブリモドキが釣れていました。「魚拓教室」のほうも大好評で、お客さんがいっぱい！ 熱心に見ていかれました。

また、JOFI 大阪が通年通して行なっている「南港魚つり園・釣り指導」は、平成 22 年度は、実施 54 日 (内 14 日は荒天中止)、参加インストラクター数合計 212 名。毎週平均 5 名のインストラクターが、これから海に親しむという初心者のために、釣りのご相談を受けさせていただいています。(報告：萱間)



報告5

姫路市立遊漁センター秋のこども釣り教室 (H23-10/30)

JOFI 大阪が運営協力している南港魚つり園の姉妹施設、姫路市立遊漁センターにて、10月30日、秋の「こども釣り大会・釣り教室」を開催しました。午前7時、小雨の降る中、事前に申し込んでいた子どもたち 30 名が集合。アジ・アイゴ・グレ・キュウセン・フグ・セイゴ・コノシロ・ガシラ・ボラなど多魚種が釣れました。小アジを背掛けにして 55cm のスズキを釣ったり、大型カレイを釣った少年もいました。釣りを通して自然に親しみ、親子のふれあいを感じた一日でした。(報告：姫路市 吉田実寛)



報告6

大阪市立みらい園・のぞみ園 釣り教室 (H23-8/28,10/8)

前回約束した秋のハゼ釣り教室を、8月28日(座学)、10月8日(実釣)で行いました。座学では釣りのマナー・安全・自然環境などを学び、最後に、各自汗だくになりながら実釣用の仕掛けを作ります。「楽しみが膨らむように」と田隅氏を作ってくれたハゼのイラスト入り缶バッジを子供たちにプレゼント。

実釣は当初座学の翌週の予定でしたが、台風12号上陸のため1カ月延期。紀伊半島を直撃したこの台風は避ける以外にはない。

実釣の日には天気快晴。朝8時、釣りインストラクター13名が淀川河川公園海老江地区に集合。熱中症対策にテント5張を設置。天ぷらの準備も完了した頃、子供14名と職員4名が到着。車から降りるなりすっ飛んでくる子供たち、楽しみに待っていた1カ月だったのだらう。

インストラクターとのペア割り振りしていると「私は川村先生がいい」と小学生のKちゃんのご指名。川村氏照れてニコリ。全員大笑い。釣り教室も4年目となり、それぞれ絆もできている様子。

釣りのほうは、1カ月延期の間にハゼは少し沖合に移った様子で、沖向きへチョイ投げすると良いサイズが釣れた。大きな体のH君、私のライフジャケットを着て、じっとガマンでやっと1尾…Vサイン。小学生のA君、辛抱たまらず竿で水中をかき回し中島氏タジタ

ジ。それでも皆に釣果があり、昼食時には毎回人気のハゼの天ぷらがあっという間に子供たちの胃の中へ。調理班も大忙しだった。

3時半頃から周辺のゴミ回収を行なった。川岸のヨシや立木の从中からペットボトルやトレイ、ジュースの空き缶がどんどん出てくる。集めたゴミは子供たちの手で河川公園の管理人さんに渡し処分をお願いした。

「次はリールの付いた竿で釣りたいな」とR君からの希望があったので、次回を楽しみに！と約束して、秋のハゼ釣り教室は無事に終了しました。(報告：大阪東部支部 近藤幹男)



報告7

ファミリー海釣り大会 2011 (H23-8/28,10/8)

財団法人日本釣振興会大阪支部主催の「ファミリー海釣り大会2011」がコスモスクエア海浜緑地で10月23日開催され、釣り場の安全指導、ジュニア・シニア釣り教室、水質調査講習会等について協力しました。表彰式では、チヌ、スズキ、ガシラ、アジ、

イワシなど各部門ごとにたくさん賞品があり、一人では持ち切れない量に参加者は大歓声。最後に会場周辺の清掃を行って大会を終りました。(報告：田隅)





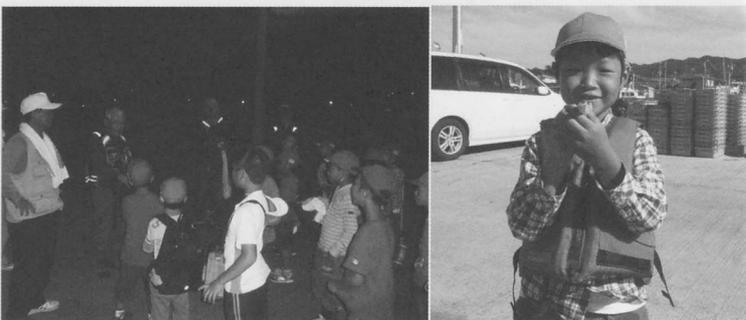
寝屋川市スポーツ少年団 親子ふれあい釣り教室 (H23-9/24)

恒例になっている「平成 23 年度寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあい釣り教室」を、9月24日、参加者26名、協力者11名（スポーツ少年団3名、インストラクター8名）で昨年イワシの入れ食いを楽しめた淡輪漁港で開催しました。

寝屋川市役所を朝10時に出発し、12時前に現地到着。公園で楽しい昼食をとった後、川嶋インストラクターから「すきすきフィッシング」の教材で教室を始めます。危険な魚としてハオコゼ、クサフグ、ハゼの現物を見てもらい、ライフジャケットの重要性を説明。班別になり仕掛けのセットを行ない、14時頃から実釣開始しました。しかし30分、1時間と釣れない時間が過ぎると、暑さのためか、子供達の集中力もだんだんなくなってきました。

夕日が西に傾いてきた頃に、ようやく対岸の釣り人が何か釣り上げだしました。それを機にあちらこちらで15cm前後のアジが釣れだし、子供達の笑顔を見られるようになってき

ました。終了は午後6時としていましたが少し延長、全員が10匹以上釣り、50匹以上釣り上げた子供も。それぞれの顔に満足の表情が溢れていました。（報告：物部）



バリアフリー釣り大会 (H23-10/15)



10月15日、岬町淡輪ヨットハーバーで催された「バリアフリー釣り大会」に、本年も JOFI 大阪のメンバー6名が参加しました。障害を持たれた人でも釣りが出来る、釣りを楽しんでもらおうと、NPO 法人み・らいずが10年前に淡輪ヨットハーバーの協力を得て始められたもので、今回で11回目になります。

雨模様のため開催が危ぶまれましたが、時間を遅らせて決行することとなりました。そこで我々インストラクターは、空いた時間にアジを釣ることに。この催しの人気の一つである、釣った魚を食べるためですが、総勢100名を超える人たちに十分にきわたるようにと考えてのことで、これが大正解でした。

昼食後グループ分けをし、各グループにインストラクターがつき道具、仕掛けを作り、種々のゲーム形式で大会は始まりました。なかなか釣れませんでした。この間にアジのから揚げや刺身を食べることができました。そのうち、イワシやアジ、また小サバ、グレ、カワハギ、サンバスウ、チャリコ、イソベラ、小チヌ、ガシラ、ウミタナゴ、ギンポ、フグ等が釣れてポーズの人はいません。大会は最後の釣り場清掃競技で終わり表彰式となりました。

参加者全員が和気あいあいと半日を事故もなく過ごすことができ、また我々インストラクターも障害者の方やボランティアの方から元気を頂けた一日でした。感謝。（報告：高淵）



大阪市青少年指導員連絡協議会 釣り教室(H23-11/6)

大阪市内各地区から中学生と青少年指導員が多数集合し、第2回の大阪市青少年指導員連絡協議会釣り教室がシーサイドプロムナードで11月6日土曜日開催。協賛組織としてJOFI大阪(大阪府釣りインストラクター連絡機構)も10数名のインストラクターが参加し、釣り指導や釣り場の安全指導、水質調査講習会等についてお手伝いをさせていただきました。

朝早くから熱心に釣りをしているにも関わらず釣果はさっぱり。今日は底が見えるぐらい透きとおっているし、潮も最悪、全員でフグも含めて数匹の釣果にも関わらず熱心に釣りを楽しんでいる姿に、魚さん回ってきて!とい願うばかり。

昨年に引き続き今年も水質調査の説明会を開催。釣り場の現状、大阪湾の環境、水質調査の目的意義について来田代表からの説明の後、水温や溶存酸素濃度、PH等を参加していただいた中学生の皆さんと共に測定し、水質調査について学んでいただきました。

釣り教室終了後、野外炊事棟に場所を移し表彰式。釣果が少ないため残った商品にみんなでジャンケン大会、若さパワーで大変盛り上がり、表彰式は終了。昼食は参加者全員で和気あいあいとバーベキューを楽しみました。(報告:田岡)



第4回全国アマモサミット (H23-11/20)

11月20日、大阪・海遊館ホールにて「第4回全国アマモサミット」開催。朝10時からプログラムがびっしり。アマモ再生に取り組む団体の活動報告が行われ、各団体のつながりを持つことができました。全国アマモサミットというだけあって、アマモ場再生活動をされている方々が全国から集まり、その思い、取り組み、問題点などが良くわかりました。ただ、日曜日に開催したにも関わらず、一般の市民はほとんど入場されていませんでした。参加した一人として、

「釣り人へのアピール」をもっとしていかなければならないと思いました。元々アマモ場という自然があり、それを壊してきたのは他にもない私たちの世代です。ゆえにアマモ場を復活させる責任があるのだと思います。釣り人も、漁業者も、行政に関わる方々も、誰もが市民であるという立場を忘れずに、自然再生に向けて取り組みたいものです。(報告:萱間)



公認釣りインストラクター講習会 (H23-12/17-18)

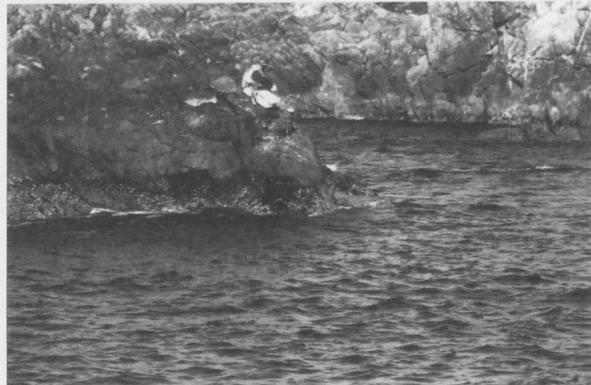
12月17～18日「平成23年度 公認釣りインストラクター講習会・資格試験」をヒューマンアカデミー大阪心斎橋校にて開催。受験者24名、講師9名、スタッフ7名。講義は大阪府環境農林部の大道斉主査による「漁業法、遊漁に関する法令」から始まり、各講師が「漁業調整規則」「釣具」「気象・海象」「釣りの技術」「自然環境」等を担当。2日目の午後からは試験と論文、最後に実技と面接を行ないました。講義のあとの質問も多く、またレベルが高く、JOFI大阪のメンバーが増える期待が持てた有意義な2日間でした。(報告：山崎)



私の釣りの記

「串本出雲崎」 森脇 操

12月初めクラブの大会があり、串本の出雲崎に釣行しました。前日海は大荒れで、当日はきっと大島回りかなと皆で話していましたが、なんと当日海は波もなくポカポカ天気でした。釣り場は抽選でサバという磯に当たりました。天気の良い日でしたが、太陽の当たらない磯で一日寒い所でした。釣果は23人中14位でした。残念。優勝はグレの34.1cm、大物1位はコロダイ54.7cmでした。(写真はサバより前方の磯を望む)



平成22年の海難及び人身事故の発生状況等について

第五管区海上保安本部（海区：播磨灘、大阪湾、徳島・高知・和歌山の南方）が取り扱った平成22年の船舶海難及び人身事故の発生状況等が発表されました。(1/17発表、以下発表資料より抜粋)

【1】船舶海難の発生状況

- 1 平成22年の海難船舶隻数は277隻で、前年に比べ32隻減少
- 2 プレジャーボートの海難船舶隻数は131隻（全体の47%）で、次いで漁船の62隻（全体の22%）
- 3 船舶海難に伴う死亡・行方不明者数は4人で、そのうち2人が漁船の海難に起因している

【2】人身事故の発生状況

- 1 平成22年の人身事故者数は311人で、前年に比べ18人減少
- 2 人身事故に伴う死亡・行方不明者数は129人で、前年に比べ20人減少
- 3 人身事故で一番多い事故は、自殺99人、次いで海中転落（釣り中を含む）59人
- 4 海中転落者数は59人で、前年に比べ41人減少、死亡・行方不明者は25人で、前年比29人減少し半減
- 5 マリンレジャーに伴う海浜事故者数103人のうち、釣り中の事故者数が42人と突出
- 6 スキューバダイビング中の事故者数が前年の11人から6人に減少

【3】海中転落者のライフジャケット（救命胴衣）着用状況

- 1 船舶からの海中転落者12人すべてライフジャケット未着用者
- 2 釣り中に海中転落した人21人のライフジャケット未着用者は17人
- 3 釣り中の海中転落者のうち、ライフジャケット着用者4人の生存率は100%で、ライフジャケット着用の効果は絶大

【4】平成22年の海上保安庁緊急通報番号「118番」の通報状況

年間取り扱い件数は約69,000件、有効な通報は1.0%。悪戯電話は減少傾向にあるものの依然としてなくなる。

【人身事故の事例】

釣り中の人身事故（海中転落）：8月31日午前5時0分頃、兵庫県洲本市洲本港内。単独（男性、50才）でライフジャケット未着用で魚釣りをしていましたが、防波堤から誤って海中転落し、溺死したものの。

<釣りをする時、ライフジャケットは必ず着けましょう！>

第6回大阪湾 53 Pick Up!

～水辺を守る釣り人ミーティング～

大阪湾 53Pickup! 清掃活動は、2006年10月に西宮港、貝塚人工島、深日港から第1回目をスタートし、その後、芦屋浜、大阪南港、泉佐野港、二色浜、せんなん里海公園など各地でゴミの量や意識調査などを行ないつつ、取り組んできました。第6回目の開催は、大震災の後で様々な事業が重なり延期しておりましたが、ようやく準備が整いましたので、春の萌が訪れる3月25日に開催いたします。今回は、清掃活動、チャリティー釣具交換会などに加えて、「大阪湾の水産資源と環境について」特別講演と、水質調査についての研修会を併せて開催させていただきます。皆様のご参加をお待ちしています。



<実施概要>

- 開催日 2012年3月25日(日)
- 集合場所 泉佐野港(旧フェリー乗り場)
- 集合時間 午前8時(関空マリーナ側のゲートを7:30~8:30まで開けますので、参加者名を告げてお入り下さい。)
- 参加費 500円または交換可能な釣具1点持参
(参加費および釣具交換会の募金は全て運営費に充当します。)
- 進行予定
 - 第1部 8:00~ 清掃活動
 - 10:00~ チャリティー釣具交換会+何か温かい食事を用意します
 - 第2部 10:30~ 大阪湾の水産資源と環境について特別講演
(講師=大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課 藤林栄蔵氏)
 - 11:00~ 水質調査講習会
 - 11:30 終了



- 主催 NPO 法人 釣り文化協会
NPO 法人 水辺基盤協会
- 協力 大阪府港湾局、泉佐野市
大阪府釣りインストラクター連絡機構
釣具メーカー各社
- 運営 大阪湾 53PickUp! 実行委員会

<参加申込>

お名前・住所・連絡先を実行委員会まで。
Tel 06-6358-4414 / Fax 06-6358-4445 / メール jimukyoku@turibunka.or.jp
〒531-0061 大阪府北区長柄西1-8-3 NPO 法人釣り文化協会事務局内
※飛び入り参加も大歓迎いたしますが、用具や食事など準備が必要な為、できれば3日前(3/22)までにお申し込み下さい。それ以後は実行委員長の携帯(090-1902-2833)までご連絡下さい。

JOFI 研修会のご案内

JOFI 大阪インストラクター並びに釣り文化協会会員の皆様
第6回大阪湾 53PickUp! に併せて、「大阪湾の環境」についての研修会を実施します。

日時:平成24年3月25日(日)午前10時~11時半
場所:泉佐野港
テーマ:「大阪湾の水産資源と環境について」藤林栄蔵氏
野外にて10時30分から講義の予定(椅子を用意しています)。その後、今年度の水質調査について説明を行ないます。
なお雨天の場合、研修会は中止します。
当日お渡しを予定しているもの:

- ①平成23年度大阪湾水質調査報告書(データと総評)
 - ②平成24年度水質調査・調査項目シート(新しくなります)
 - ③水質調査用備品(欠品のある方のみ。事前にご連絡下さい)
- 参加申込(3/18迄):NPO 法人釣り文化協会事務局
tel06-6358-4414 fax06-6358-4445

大阪湾の水質調査員募集中!

2012年度の水質調査員を募集しております。調査は月に1~2回程度、釣行のついでなど、各々が無理のない範囲でお願いしています。水質を知れば、釣魚の状態がよくわかりますよ!

募集期間:随時
調査期間:年間(7~10月が重点調査期間)
調査キット:基本の調査キットは全て釣り文化協会です。
事前にお申し込ただけで、3/25の研修会でお渡しします。
申込み・問合せ:NPO 法人釣り文化協会事務局
tel06-6358-4414 fax06-6358-4445

